

## 6. 国内会議

- 2月19日：鉄鋼 ISO 運営委員会  
 2月27日：TC17/SC1 分科会・諮問部会  
 2月28日：ISO 活動報告会

## 7. 国際会議 (向こう 3 か月間の予定)

- TC17/SC20 4月27日～30日 パリ  
 TC17/SC9 5月27日～30日 ロンドン

## 会議ダイジェスト

## 編集委員会

## ・第 1 回和文会誌分科会

開催日：3月3日

出席者：本原主査ほか，9名。

- 10件の論文審査報告がなされ，掲載決定6件，照会后掲載可2件，返却2件であった。
- 「鉄と鋼」第78年第6号(6月号)に論文11件の掲載決定をし，第5号(5月号)に現場技術報告5件の掲載決定をした。
- 解説等11件の執筆依頼を決定した。
- 年末に掲載する題目別索引の分類は，講演大会で使用している大分類を参考にすることとした。
- 論文をよりよく読んでもらうため簡単な紹介文を掲載したいとの意見が出され，記載場所等，検討を行った。

## ・第 11 回欧文会誌分科会

開催日：2月28日

出席者：菊池主査ほか，5名。

- 13件の原稿につき審査報告がなされ，照会后掲載可2件，修正依頼6件，返却5件であった。
- 金属学会英文誌との合併について，その必要がないことを確認した。
- International Advisory Board の委員構成，役割を検討した。
- 「鉄と鋼」からの原稿転載を今後見直していくこととした。

## ・第 1 回欧文会誌分科会

開催日：3月19日

出席者：菊池主査ほか，9名。

- 16件の原稿につき審査報告があり，掲載可2件，照会后掲載可3件，修正依頼7件，返却4件であった。
- ISIJ International, Vol. 32 (1992) No. 6 に Regular article 11 件の掲載を決定した。
- Advisory Board Member の構成及び業務について検討した。

- 「鉄と鋼」からの転載原稿の意義と今後の取扱いについて検討した。
- 審査料の廃止を検討した。

## 研究委員会

## ・第 6 回研究委員会

開催日：3月13日

出席者：山口委員長ほか，16名。

- 研究環境実態調査小委員会の委員構成について
- 鉄鋼基礎共同研究会のあり方について
- 将来研究課題小委員会中間報告
- 鉄鋼研究振興資金による平成5年度実施の助成テーマの募集要領報告
- 第3回科研費研究分科会報告

## ・第 3 回科研費研究分科会

開催日：3月4日

出席者：山口主査ほか，7名。

- 平成4年3月4日午後開催される科学研究費補助金分化・細目の改訂に伴う懇談会に先立ち，対応を協議した。
- 平成4年度の研究環境実態調査で科研費補助金に応募したテーマについても調査することとした。

## 共同研究会

## ・第 106 会製鋼部会

開催日：3月18～19日

開催地：新日鉄/広畑，山特/本社[共催]

出席者：王寺部会長ほか，122名。

- 特別講演  
演題：「当社における製鋼技術の現状」  
講師：山陽特殊製鋼(株) 本社  
取締役 製鋼部長 福本 一郎氏
- 研究発表  
(1)重点テーマ：7件  
「精錬工程における機械化・自動化技術の現状と将来」  
(2)自由テーマ：13件
- 工場見学  
新日本製鉄(株) 広畑製鉄所 製鋼所

ならびに山陽特殊製鋼(株) 本社 第2製鋼工場

## ・第 92 回特殊鋼部会

開催日：3月5，6日

開催地：神鋼/神戸

出席者：矢島部会長ほか，119名。

- 特別講演  
「神戸製鉄所における製鋼技術の現状」
- 研究発表  
1) 共通テーマ：6件  
「タンディッシュにおける熱付与技術について」  
2) 共通テーマに関するパネルディスカッションおよびまとめ  
3) 自由テーマ：12件
- 工場見学  
(株)神戸製鋼所 神戸製鉄所

## ・熱経済技術部会・第 6 会新燃焼技術研究小委員会

開催日：2月27，28日

開催地：新日鉄/富津

出席者：鈴木委員長ほか，15名。

- (1)報告書イメージについて討議
- (2)技術課題—1：放射管加熱  
—2：低カロリー燃焼  
—3：触媒燃焼
- (3)特別講演「実用バーナにおける設計パラメータの探索」(株)ファーンステクノ 廣瀬靖夫氏
- (4)工場見学(君津製鉄所，総合技術センター)

## ・第 17 回調査部会

開催日：2月27日

出席者：中島部会長ほか，19名。

- 平成3年度調査部会活動報告
- 平成4年度部会予算について
- 部会報告書について  
テーマ：魅力ある鉄鋼業を目指して
- 今後の進め方
- その他

## ・運輸部会第 2 回平成 4 年度調査小委員会

開催日：2月21日

出席者：檀野委員長ほか，23名。

- (1)活動内容，今後の進め方の詳細検討

- ①2000 年を取り巻く環境について
- ②代表製鉄所から各販売域への量のイメージ検討
- ③各社における一貫輸送のイメージ
- (2)第 3 回以降の小委員会スケジュール
- (3)その他

#### ・運輸部会第 3 回平成 4 年度調査小委員会

開催日：3 月 18, 19 日

開催地：中山/六甲山荘

出席者：檀野委員長ほか、21 名。

- (1)今後の検討課題と検討体制
- (2)個別項目の検討
- (3)コンテナ埠頭におけるフィーダサービスの見学

#### ・鉄鋼分析部会第 4 回鋼中微量炭素定量法研究小委員会

開催日：3 月 19 日

出席者：猪熊委員長ほか、11 名。

- 1. 第 1 期共同実験結果の審議
- (1)空試験値低減化
- (2)予備加熱法による表面付着炭素の除去
- (3)酸洗法による表面付着炭素の除去
- 2. 第 2 期共同実験実施案の審議
- (1)しょ糖溶液を用いた検量線の作成
- (2)標準試料の分析
- 3. 自主研究報告：9 件

#### 基礎研究会

#### ・第 9 回ベイナイト調査研究部会

開催日：3 月 18 日

出席者：荒木部会長ほか、11 名。

- 1. 部会共同研究のアンケート結果報告
- 2. 特別講演「低炭素鋼ベイナイトの変態機構に関連した結晶学と今後の展望」  
阪大・清水 謙一
- 3. 委員よりの報告事項
- 4. 写真集編集 WG 報告と協議事項
- 5. 新年度の WG の進め方について
- 6. その他

#### ・第 7 回鉄鋼の表面高機能化部会

開催日：2 月 26 日

出席者：増子部会長ほか、13 名。

- (1)実験の進捗状況報告
- ①サンプル作成状況

- ②実験結果報告（九州大学）
- (2)事例報告
- ①東北大学（人工不動態皮膜の性質）
- ②神戸製鋼所（多層膜の構造と腐食特性）
- (3)その他

#### 日本圧力容器研究会議

#### ・第 3 回運営委員会

開催日：3 月 12 日

出席者：金沢会長ほか、12 名。

- 1. 日本圧力容器研究会議各部会活動報告
- 1) 材料部会
- 2) 施工部会
- 3) 設計部会
- 2. MPC 委員連絡会（仮称）について
- 3. 平成 3 年度決算報告および平成 4 年度予算(案)について

#### ・第 7 回新環境統合都市研究委員会

開催日：3 月 13 日

出席者：三宅委員長ほか、8 名。

- 1. 報告書原稿の検討および調整
- (1)情報系について
- (2)都市モデルについて

#### 標準化委員会

#### ・第 118 回普通鋼分科会

開催日：3 月 24 日

出席者：古山主査ほか、13 名。

- 1. ISO/JIS 整合についての事例検討  
冷間圧延鋼板及び鋼帯、熱間圧延形鋼の形状寸法、熔融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯等につき具体的な問題点の検討を行った。
- 2. 鉄骨品質問題について  
工業標準調査会の規格改正活動の報告、本件に関する各委員の意見交換等が行われた。
- 3. 高強度 Cr-Mo 鋼の JIS 化について  
溶接協会の原案をもとに新規格とするか既存規格（ボイラー及び圧力容器用クロムモリブデン鋼鋼板）の改正を行うことで対処するかについて討議した。
- 4. その他 略

#### 標準試料委員会

#### ・第 70 回委員会

開催日：2 月 28 日

出席者：佐伯正夫委員長ほか、18 名。

- 1. 運営部会（第 1 回～第 3 回）活動状況報告
- 2. 平成 4 年度予算説明
- 3. 鉄鋼標準試料業務の一部委託について鉄鋼協会案を承認した。
- 4. 平成 3 年暦年における JSS の製造領布状況報告
- 5. 標準物質専門委員会（日本工業標準調査会主催）第 1 回会議出席報告
- 6. 国際鉄鋼分析委員会の設立について報告
- 7. NIST 標準物質製造への協力成果についての報告
- 8. 鉄鋼標準化センターの設立について経過説明

#### ・第 4 回運営部会

開催日：2 月 28 日

出席者：佐伯部会長ほか、17 名。

- 1. 認証値決定：JSS 150-12（低合金鋼）、JSS 501-5（強靱鋼）、JSS 517-5（肌焼鋼）の認証値を決定。JSS 168-7、JSS 170-7（微量元素 B）、JSS 745-2（フェロモリブデン）、JSS 750-2（フェロバナジウム）の一部成分を再分析依頼。
- 2. 試料の素材製造報告：JSS 151-12（低合金鋼）
- 3. 錆にくい鉄試料について：NKK で溶製された残材の標準試料化を検討、引続き NKK に微量成分の分析結果の調査を依頼。
- 3. 極低炭素含有率認証値決定 WG の経過報告、C 量 100 ppm 前後の認証標準物質の作成を決定。
- 4. 硫黄専門鋼の S 値について日新製鋼より報告。